

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400525	事業の開始年月日	2018年4月1日	
		指定年月日	2018年4月1日	
法人名	株式会社 ケア21			
事業所名	グループホームたのしい家仙台柳生 ユニット：1F			
所在地	(〒 981-1106) 宮城県仙台市太白区柳生字前原北69-3			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年2月16日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コンセプトとして</p> <p>①ご入居者様の尊厳が守られ、意思決定を守れる ②自分たちで考え、成長していける ③お互いがお互いを大事にしあえる</p> <p>以上3点を掲げております。</p> <p>入居者様・ご家族様・職員が一つとなり、人生の最期を迎える時に「ああしておけば良かった」ではなく「あの時は楽しかったね」と思い出を振り返って頂けるようなホーム作りを目指しております。人生を送る中で、毎年当たり前のようにやってきた、四季折々の行事を大切に季節感を感じられるよう支援させて頂いております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年2月22日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】</p> <p>事業所ビジョン「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等</p> <p>母体法人の「株式会社 ケア21」グループは、総合福祉企業として日本全国に福祉事業を展開しており、宮城県ではグループホームの他に仙台市内に訪問介護や居宅支援事業所を運営している。「たのしい家柳生」は、県道258号の幹線道路から少し離れた水田と住宅が混在する場所にあり、2階建ての2ユニットで、開設して5年目を迎えた。事業所の1階にはウッドデッキ、2階には広いベランダがある。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】</p> <p>法人理念を基に事業所ビジョンを作成し、「生活向上リハビリ」「認知症緩和」「地域交流」の項目ごとに目標を作成し、日々のケアの目標も具体的に見えるようにしている。利用者の意思を尊重しながら、今までの生活で行っていたことが継続できるようなケアを心がけている。コロナ禍であるが、人混みを避けてのドライブやリモートを使った面会など、外出や交流が継続できるように工夫し取り組んでいる。また『花壇づくりがしたい』など、利用者の思いに応えている。職員が日常の会話で把握したこと、食事の摂取量や排泄記録等をタブレットに記録すると、すぐに職員間で情報共有ができる。かかりつけ医の訪問診療医師や、健康管理を行う訪問看護師と連携を図り、薬局と連携し「おくすりロボット」による薬の管理支援を受けている。法人で職員アンケートを実施したり、面談の際に職員の悩みを聴き改善に繋げたり、資格取得の支援も行う等取組んだ結果、長く働く職員が多い。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームたのしい家仙台柳生
ユニット名	1F

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームたのしい家仙台柳生 ）「ユニット名:1F」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示しており、ミーティングの時に事業所理念の唱和を行っている。	毎年事業所ビジョンの振返りをを行っている。ビジョンに基づき「生活リハビリ・認知症緩和・地域交流」の目標5項目を挙げ、日々の支援に活かしている。事業所ビジョンは各ユニットのフロア、玄関、休憩室に掲示し、法人の経営理念9項目は、毎月のミーティングで1項目ずつ唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、地域の活動への参加はほとんどできなかった。	町内会に加入し、利用者も一緒にごみ置き場を掃除したり、回覧板のやり取りを行っている。近隣住民と顔なじみになり、近所の畑や家の庭に咲いている桜を見せてもらったり、散歩時には挨拶を交わしている。コロナ禍前に参加していたキャンドルナイトなどの地区の行事案内をもらっているが、現在は参加していない。今後は状況を確認しながら参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、地域の方と交流できる機会がほとんどなくなった為、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、地域の方の参加がいただけない状況が続いているが、毎回意見収集の為に用紙は配布させて頂いている。	2ヶ月に1回、利用者家族全員、地区会長、民生委員、地域包括職員に案内を送付している。コロナ禍の現在は、運営推進会議のメンバーに、意見・要望を得られるよう用紙を配布し、評価も受け、集約している。地区の行事や面会の様子について情報や質問がある。議事録は、職員間で回覧し周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、定期的に情報交換させて頂いている。入居相談等行い、関係を築いている。困難事例があれば、電話等で連絡・相談を取るが、事例が今はない。	地域包括職員とは、入居相談などで情報交換をしている。仙台市からは研修の案内があり、職員に周知している。コロナ対策で抗原検査キットの提供を受けた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で、勉強会を実施している。2ヶ月に1回委員会を開いている。また、ユニット内で、身体拘束や不適切なケアがないか事例検討等も含めてディスカッションを行っている。当社マニュアルに沿って、取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議時に身体拘束適正化委員会を開催し、具体的な例を挙げ話し合っている。コロナ禍の現在、運営推進会議の委員の参加はない。職員は回覧される議事録で確認し、タブレットで研修に参加し報告書を提出している。また、内服薬が適正か医師に状況報告し相談している。防犯上、玄関は常に施錠しており、2階の入り口には転落防止のためセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体の会議や勉強会を開催し、虐待防止に努めている。また、年に一度は虐待の芽チェックリストをスタッフ全員に実施し、該当箇所にチェックを入れているスタッフとは面談を行い、改善等を必要に応じ求めている。	虐待防止と身体拘束適正化を合わせて検討する委員会を立ち上げた。2ヶ月に1回開催し、年1回研修を行っている。法人が用意する「虐待の芽チェックリスト」を使い、職員がチェックし、管理者は面談時に活用している。振り返りながらチェックリストに記入することが、未然防止に繋がっている。管理者は職員が話しやすいよう職場環境にも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修があり、不参加者も資料に目を通す様になっている。成年後継人制度を活用されている方が1名おられ、実際に関わり、他職員と情報共有する様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読み説明を行い、各項目毎に理解と納得を頂ける様、十分な説明を行い、確認の上、理解を得ている。疑問点があれば質問を受け、理解して頂ける様、説明し、対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や窓口を作り、意見を聞く機会を設けると共に、面会時や運営推進会議でも意見を頂き、反映させている。	予約制で玄関先での面会、リモートでの面会を行っている。リモートでの面会は、遠い家族とも顔合わせできる機会になっている。家族には、毎月担当職員が作成する状況報告と、2か月に1回活動報告書を送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回会社で職員アンケートを実施、個別面談を行い、個々の意見を聴き話をしやすい環境に努めている。また、昼休憩や随時、意見や提案を聴き、反映させている。	法人が年1回従業員満足度調査を行い、運営の改善に繋げている。また、年1回個人面談を行い、意見・要望を聞いている。職員の意見からフロアの飾りを季節ごとに変えるようにした。管理者は些細なことでも職員から話を聞くようにしている。資格取得の費用支援を行っており、働きやすい職場環境を整備していることで職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々職員の希望に沿った労働時間と勤務体制をとり、働きやすい職場環境に努めている。有休利用や退社時間の遵守を勧めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も職員に合わせて参加を促している。事業所での研修の機会もある。働きながら資格取得の支援を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修に参加する事で、同業者と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしている。また系列事業所との合同研修を行う等の交流の機会を設けている。	県主催の研修に参加し、同業者と意見交換をしている。同法人が主催する全国規模のリモート研修に参加し、他事業所の職員と意見交換を図り、ケアの質の向上に繋げている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が面接を行い、本人・家族、周囲の関係者と話し合う時間を設け、本人の考え、不安等を聴き、今後の生活に対する想いに差異がないか、確認する様にしている。安心して頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が面接を行い、本人・家族、周囲の関係者と話し合う時間を設け、本人の考え、不安等を聴き、今後の生活に対する想いに差異がないか、確認する様にしている。安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の想い、課題を把握した上で、どんなサービスが必要か、確認、提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の野菜の下処理や食器洗い、掃除、洗濯たたみ、レク、外出、買い物、活動等、一緒に出来る事を大切にし、相互の関係を築ける様取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて、交流の機会がほとんどなくなっているが、衣替え、受診や外出等での交流の機会を作り、本人の状態等を連絡し、出来る事は行って頂いている。家族との情報交換により、提案やサポートを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、実施がほとんどできなかった。	コロナ禍で馴染みの場所には行けないが、以前住んでいた家の近くをドライブしたり、家族と電話のやり取りや、知人と手紙のやり取りを関係が途切れないよう継続支援をしている。毛染めでおしゃれが楽しめる訪問理・美容を利用しており、利用者には喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気があまり合わない方同士等には、職員が介入する事で、トラブル防止に努め、多く関わり合える時間を設けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設にて退所相談はなく、行っていない。相談があれば、他施設を紹介する等、情報提供し、安心して生活出来る様協力する体制はある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の気づきをカンファレンスや適宜、話し合う様にしている。本人の話を聴き、対話にて入所前の生活歴や習慣を職員間で話し合いを持ち、本人の意向、想いに添える様に努めている。	タブレットを活用し、日々の関わりの中で把握した利用者の思いや意向を記録し、職員間で情報共有をしている。意志表示が難しい人には声がけを工夫したり、家族から入居前の趣味や生活歴を聞きケアに活かしている。テラスで野菜を育て収穫し楽しんだり、お手玉作りをしている人もいる。外出要求の強い人には、職員と一緒に散歩に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、家族からの聞き取り内容を元に、またこれまでのサービスを利用している場合は、担当ケアマネ、相談員からも情報を得てアセスメント表を作成し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員で様子、状態観察したことを話し合い、本人の有する力、状態を把握する様努めている。日常生活の中での気づきに対して、その都度話し合い、職員間で気づきが共有出来る様、タブレット・スマートフォンで記録の共有を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、家族や職員で話し合いを持ち、多職種からの意見、本人の状況確認、今後必要となる支援について確認を行っている。出てきた意見等、カンファレンス・サービス担当者会議にて確認し、プラン作成に活かしている。	ケアマネジャーが毎月モニタリングを行い、状態が安定している人は半年ごとに、変化があればその都度、介護計画を見直している。職員から、利用者の様子について聞き取り、医師、看護師、薬剤師からの意見も反映し見直している。家族とは電話で相談しながら計画に活かし、見直し後は電話で説明のうえ、郵送して同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット・スマートフォンを活用し、情報の共有に努めている。本人の体調・想い等、集めた情報を元に、カンファレンス・サービス担当者会議を行い、ケアプラン作成に活かしている。必要時には、ケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等、状況により、時にご家族様の協力を頂きながら、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、地域資源等の活用はほとんどできなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での対応が必要な方は、往診の出来る主治医へ、切り替えを提案している。普段の状態を記録し、主治医に報告出来る様にしている。何かあれば、主治医に相談し対応してもらっている。入居前からの定期受診の際は、家族の対応で通院してもらっている。	ほとんどの利用者が訪問診療医師をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。訪問歯科の診療を受けている人もいる。専門医には基本、家族付き添いで受診している。訪問看護師が週1回訪問し、健康管理をしている。契約している薬局と連携し、時間になると薬が出てきて知らせてくれる「お薬ロボット」を設置しており、2週間に1回薬剤師が管理に訪れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況を把握し、小さな変化でも対応出来る様、何かあればすぐ相談・対応出来る様にしている。医療連携体制として、オンコールで訪問看護とホームでやりとりを行っている。週1回の訪問看護により、健康チェックを行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。家族とも、情報共有出来る様にしている。入院中、計画作成担当者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合う事もある。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と、重度化に伴う対応や看取りの必要が生じた場合の対応を本人・家族に説明している。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに係る指針」について説明している。重度化した時は医師が家族に説明して、職員が再度指針を説明し、対応について同意書を取交し看取りに入っている。24時間対応の訪問医や訪問看護師と連携を図っている。職員は看取りの研修を行い、看取り後は話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアル等を活用し、急変時に備えて日々の実践の中で、誰でも対応できるように準備している。応急手当等は訓練はできていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき行っている。避難訓練は、入居者の状況も把握し、スムーズに出来る様年2回実施し、災害の認識を高める様にしている。非常食も常備している。	年2回、夜間想定で避難訓練を行っている。他に水害想定で2階への垂直避難訓練を行った。避難の際に近隣住民から協力が得られるように、各個室の入り口に顔写真と名前が入ったカードを準備し、いざという時に活かせるよう取組んでいる。感染症予防対策として、手洗い、うがい、消毒、換気を徹底している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を踏まえ、尊厳を損なわない様気をつけ、十分配慮した声掛けを行っている。	尊厳の尊重についての研修を行っている。ゆっくり食事をする人には、せかさないうペースに合わせるなど、一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。排泄支援の時には『トイレ』と言わず表現方法を変えるなど、言葉を選んで声掛けしている。呼び名は希望を聞き、基本「さん」をつけて呼んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたい事等の希望や想いを普段から引き出せるように心掛け、自己決定出来る様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人一人の生活リズムを尊重し、思いのまま過ごして頂ける様配慮している。また、本人がどうしたいのか、どう活動したいのか確認する様になっている。希望は可能な限り対応する様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、自分で選んでおしゃれを楽しんで頂いている。時々マニキュアを塗って楽しんで頂く事もある。身支度の時間は長くなっても納得のいくまで行って頂いている。自分で選べない方には、声掛けして、確認し、身だしなみを整えている。定期的に理美容も実施している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を食していただける機会を設けている。野菜下処理、盛り付け、食後の食器洗い、食器拭き等出来る事はして頂いている。好みを取り入れ、食事が楽しみとなる支援を行っている。	昼・夕食は業者から食材が届き、調理している。ご飯とみそ汁は手作りしている。利用者はできる人は一緒に調理、盛り付け、後片付けを行っている。利用者からのリクエストや行事食にも対応して食事が楽しみなるよう支援している。ドライブの時に食べたいものを購入し、楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量に合わせて提供し、形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診医と協力し、口腔ケアを行っている。義歯洗浄、歯磨き等個人に合わせた口腔ケアを自分で出来る事をして頂いている。不十分な方には、出来る部分まで、自身で行って頂き、仕上げを手伝い、義歯洗浄も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パット類の見直しを行い、本人の状況にあったものとなる様取り組んでいる。夜間おむつ使用している方でも、日中はリハパンとパット対応で、定時トイレ案内し、出来るだけトイレでの排泄を促している。	一人ひとりのタイミングに合わせ、声がけしトイレで排泄ができるよう支援している。トイレは大きく分かりやすく表示している。便秘予防には水分摂取に気を配り、対策は訪問看護師に相談し医師の指示で薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分量等の配慮も行っている。軽い運動を行って頂き、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決め、入浴時間は、午前10時30分から、午後15時30分の範囲で設定している。入浴希望者には、都度対応し、入浴してもらっている。1階では、お一人夜間浴で対応している方あり。	週2回の入浴を基本としているが、週3回入浴する人もいる。自立している人で夜間に入浴を希望する場合は、職員が見守っている。入浴を拒まれた場合には、声掛けを工夫し入浴を促すなど清潔保持に努めている。季節に合わせてゆず湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間就寝する時間もその時の本人の想いに添う様になっている。個々の生活リズムや身体状況に応じ、日中の休息も取り入れている。夜間の睡眠も小まめに確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況をまとめた表を活用し、一人一人に合わせてのお薬ロボットを使用している。往診日には、職員が立ち会い、薬についても説明を受け、服薬内容についても、薬の説明書を個々にファイリングし、常に内容が確認できる様にしている。薬のセットは、薬剤師が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来る役割（野菜の下処理、食器洗い、食器拭き、洗濯畳、掃除等）を持って頂いている。脳トレや読書、体操、趣味に取り組める時間も作っている。趣味や嗜好も本人との話で探し、楽しみを持って頂ける様、工夫して対応している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、ほとんど実施できなかった。	人の込み具合に配慮し日時を選んで、秋保や互理、竹駒神社などにドライブに出かけている。車いす対応の車両があり、車いすの人も一緒に出かけ楽しんでいる。気候の良い時は、近くの公園や近隣住宅の大きな庭などに出かけている。ウッドデッキで、収穫した野菜も一緒にバーベキューを行い楽しむなど、イベントを通して外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で少額の小遣いを管理されている方がいる。新型コロナウイルスの影響により、ほとんどお買い物へは行けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていて、適宜、家族や友人と連絡される入居者もおられる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に限らず、職員が清掃し、清潔を保っている。カーテンやLED照明で明るさを調整し、居心地が良く生活出来る様工夫している。階段、玄関には和む絵を飾っている。フロアには、3台空気清浄機設置している。花壇には、季節に応じた花・野菜を植えている。	リビングは広く明るく、季節が感じられるよう飾りを工夫している。玄関には歴代の利用者が作った飾りびなや干支の人形を飾り和やかな雰囲気季節感が味わえる。職員が温・湿度を管理しており、フロアには加湿できる空気清浄機を設置している。1階のウッドデッキは、利用者が野菜を育て収穫を楽しめる場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下の各所にソファや椅子を設置している。一人で過ごしたり、気の合う同士でお喋りが楽しめたり、くつろいだり出来る様、工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具を持ってきて頂く等工夫している。馴染みのものをもって来て頂く様、お伝えはしている。	エアコン、室内照明、カーテン、クローゼット、コールボタンが備え付けられている。利用者はテレビやタンス、テーブルなど馴染みの物を持ち込み、位牌を持ってきている人もいる。居室清掃は職員が行う場合は利用者から了解を得たうえで掃除しており、自分で清掃する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が移動しやすい様、手摺や空間に配慮している。居室の表示が見えやすい様になっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400525	事業の開始年月日	2018年4月1日	
		指定年月日	2018年4月1日	
法人名	株式会社 ケア21			
事業所名	グループホームたのしい家仙台柳生 ユニット：2F			
所在地	(〒 981-1106) 宮城県仙台市太白区柳生字前原北69-3			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年2月15日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コンセプトとして</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ご入居者様の尊厳が守られ、意思決定を守れる ②自分たちで考え、成長していける ③お互いがお互いを大事にしあえる <p>以上3点を掲げております。</p> <p>入居者様・ご家族様・職員が一つとなり、人生の最期を迎える時に「ああしておけば良かった」ではなく「あの時は楽しかった」と思い出を振り返って頂けるようなホーム作りを目指しております。人生を送る中で、毎年当たり前のようになってきた、四季折々の行事を大切に季節感を感じられるよう支援させて頂いております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年2月22日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 事業所ビジョン「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人の「株式会社 ケア21」グループは、総合福祉企業として日本全国に福祉事業を展開しており、宮城県ではグループホームの他に仙台市内に訪問介護や居宅支援事業所を運営している。「たのしい家柳生」は、県道258号の幹線道路から少し離れた水田と住宅が混在する場所にあり、2階建ての2ユニットで、開設して5年目を迎えた。事業所の1階にはウッドデッキ、2階には広いベランダがある。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 法人理念を基に事業所ビジョンを作成し、「生活向上リハビリ」「認知症緩和」「地域交流」の項目ごとに目標を作成し、日々のケアの目標も具体的に見えるようにしている。利用者の意思を尊重しながら、今までの生活で行っていたことが継続できるようなケアを心がけている。コロナ禍であるが、人混みを避けてのドライブやリモートを使った面会など、外出や交流が継続できるように工夫し取り組んでいる。また『花壇づくりがしたい』など、利用者の思いに応えている。職員が日常の会話で把握したこと、食事の摂取量や排泄記録等をタブレットに記録すると、すぐに職員間で情報共有ができる。かかりつけ医の訪問診療医師や、健康管理を行う訪問看護師と連携を図り、薬局と連携し「おくすりロボット」による薬の管理支援を受けている。法人で職員アンケートを実施したり、面談の際に職員の悩みを聴き改善に繋げたり、資格取得の支援も行う等取り組んだ結果、長く働く職員が多い。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームたのしい家仙台柳生
ユニット名	2F

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームたのしい家仙台柳生 ）「ユニット名:2F」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示しており、ミーティングの時に事業所理念の唱和を行っている。	毎年事業所ビジョンの振返りを行っている。ビジョンに基づき「生活リハビリ・認知症緩和・地域交流」の目標5項目を挙げ、日々の支援に活かしている。事業所ビジョンは各ユニットのフロア、玄関、休憩室に掲示し、法人の経営理念9項目は、毎月のミーティングで1項目ずつ唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、地域の活動への参加はほとんどできなかった。	町内会に加入し、利用者も一緒にごみ置き場を掃除したり、回覧板のやり取りを行っている。近隣住民と顔なじみになり、近所の畑や家の庭に咲いている桜を見せてもらったり、散歩時には挨拶を交わしている。コロナ禍前に参加していたキャンドルナイトなどの地区の行事案内をもらっているが、現在は参加していない。今後は状況を確認しながら参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、地域の方と交流できる機会がほとんどなくなった為、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、地域の方の参加がいただけない状況が続いているが、毎回意見収集の為に用紙は配布させて頂いている。	2ヶ月に1回、利用者家族全員、地区会長、民生委員、地域包括職員に案内を送付している。コロナ禍の現在は、運営推進会議のメンバーに、意見・要望を得られるよう用紙を配布し、評価も受け、集約している。地区の行事や面会の様子について情報や質問がある。議事録は、職員間で回覧し周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、定期的に情報交換させて頂いている。入居相談等行い、関係を築いている。困難事例があれば、電話等で連絡・相談を取るが、事例が今はない。	地域包括職員とは、入居相談などで情報交換をしている。仙台市からは研修の案内があり、職員に周知している。コロナ対策で抗原検査キットの提供を受けた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で、勉強会を実施している。2ヶ月に1回委員会を開いている。また、ユニット内で、身体拘束や不適切なケアがないか事例検討等も含めてディスカッションを行っている。当社マニュアルに沿って、取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議時に身体拘束適正化委員会を開催し、具体的な例を挙げ話し合っている。コロナ禍の現在、運営推進会議の委員の参加はない。職員は回覧される議事録で確認し、タブレットで研修に参加し報告書を提出している。また、内服薬が適正か医師に状況報告し相談している。防犯上、玄関は常に施錠しており、2階の入り口には転落防止のためセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体の会議や勉強会を開催し、虐待防止に努めている。また、年に一度は虐待の芽チェックリストをスタッフ全員に実施し、該当箇所にチェックを入れているスタッフとは面談を行い、改善等を必要に応じ求めている。	虐待防止と身体拘束適正化を合わせて検討する委員会を立ち上げた。2ヶ月に1回開催し、年1回研修を行っている。法人が用意する「虐待の芽チェックリスト」を使い、職員がチェックし、管理者は面談時に活用している。振り返りながらチェックリストに記入することが、未然防止に繋がっている。管理者は職員が話しやすいよう職場環境にも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修があり、不参加者も資料に目を通す様になっている。成年後継人制度を活用されている方が1名おられ、実際に関わり、他職員と情報共有する様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読み説明を行い、各項目毎に理解と納得を頂ける様、十分な説明を行い、確認の上、理解を得ている。疑問点があれば質問を受け、理解して頂ける様、説明し、対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や窓口を作り、意見を聞く機会を設けると共に、面会時や運営推進会議でも意見を頂き、反映させている。	予約制で玄関先での面会、リモートでの面会を行っている。リモートでの面会は、遠い家族とも顔合わせできる機会になっている。家族には、毎月担当職員が作成する状況報告と、2か月に1回活動報告書を送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回会社で職員アンケートを実施、個別面談を行い、個々の意見を聴き話をしやすい環境に努めている。また、昼休憩や随時、意見や提案を聴き、反映させている。	法人が年1回従業員満足度調査を行い、運営の改善に繋げている。また、年1回個人面談を行い、意見・要望を聞いている。職員の意見からフロアの飾りを季節ごとに変えるようにした。管理者は些細なことでも職員から話を聞くようにしている。資格取得の費用支援を行っており、働きやすい職場環境を整備していることで職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々職員の希望に沿った労働時間と勤務体制をとり、働きやすい職場環境に努めている。有休利用や退社時間の遵守を勧めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も職員に合わせて参加を促している。事業所での研修の機会もある。働きながら資格取得の支援を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修に参加する事で、同業者と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしている。また系列事業所との合同研修を行う等の交流の機会を設けている。	県主催の研修に参加し、同業者と意見交換をしている。同法人が主催する全国規模のリモート研修に参加し、他事業所の職員と意見交換を図り、ケアの質の向上に繋げている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が面接を行い、本人・家族、周囲の関係者と話し合う時間を設け、本人の考え、不安等を聴き、今後の生活に対する想いに差異がないか、確認する様にしている。安心して頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が面接を行い、本人・家族、周囲の関係者と話し合う時間を設け、本人の考え、不安等を聴き、今後の生活に対する想いに差異がないか、確認する様にしている。安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の想い、課題を把握した上で、どんなサービスが必要か、確認、提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の野菜の下処理や食器洗い、掃除、洗濯たたみ、レク、外出、買い物、活動等、一緒に出来る事を大切に、相互の関係を築ける様取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて、交流の機会がほとんどなくなっているが、衣替え、受診や外出等での交流の機会を作り、本人の状態等を連絡し、出来る事は行って頂いている。家族との情報交換により、提案やサポートを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、実施がほとんどできなかった。	コロナ禍で馴染みの場所には行けないが、以前住んでいた家の近くをドライブしたり、家族と電話のやり取りや、知人と手紙のやり取りを関係が途切れないよう継続支援をしている。毛染めでおしゃれが楽しめる訪問理・美容を利用しており、利用者に喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気があまり合わない方同士等には、職員が介入する事で、トラブル防止に努め、多く関わり合える時間を設けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設にて退所相談はなく、行っていない。相談があれば、他施設を紹介する等、情報提供し、安心して生活出来る様協力する体制はある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の気づきをカンファレンスや適宜、話し合う様にしている。本人の話聴き、対話にて入所前の生活歴や習慣を職員間で話し合いを持ち、本人の意向、想いに添える様に努めている。	タブレットを活用し、日々の関わりの中で把握した利用者の思いや意向を記録し、職員間で情報共有をしている。意志表示が難しい人には声かけを工夫したり、家族から入居前の趣味や生活歴を聞きケアに活かしている。テラスで野菜を育て収穫し楽しんだり、お手玉作りをしている人もいる。外出要求の強い人には、職員と一緒に散歩に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、家族からの聞き取り内容を元に、またこれまでのサービスを利用している場合は、担当ケアマネ、相談員からも情報を得てアセスメント表を作成し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員で様子、状態観察したことを話し合い、本人の有する力、状態を把握する様努めている。日常生活の中での気づきに対して、その都度話し合い、職員間で気づきが共有出来る様、タブレット・スマートフォンで記録の共有を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、家族や職員で話し合いを持ち、多職種からの意見、本人の状況確認、今後必要となる支援について確認を行っている。出てきた意見等、カンファレンス・サービス担当者会議にて確認し、プラン作成に活かしている。	ケアマネジャーが毎月モニタリングを行い、状態が安定している人は半年ごとに、変化があればその都度、介護計画を見直している。職員から、利用者の様子について聞き取り、医師、看護師、薬剤師からの意見も反映し見直している。家族とは電話で相談しながら計画に活かし、見直し後は電話で説明のうえ、郵送して同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット・スマートフォンを活用し、情報の共有に努めている。本人の体調・想い等、集めた情報を元に、カンファレンス・サービス担当者会議を行い、ケアプラン作成に活かしている。必要時には、ケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等、状況により、時にご家族様の協力を頂きながら、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、地域資源等の活用はほとんどできなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での対応が必要な方は、往診の出来る主治医へ、切り替えを提案している。普段の状態を記録し、主治医に報告出来る様になっている。何かあれば、主治医に相談し対応してもらっている。入居前からの定期受診の際は、家族の対応で通院してもらっている。	ほとんどの利用者が訪問診療医師をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。訪問歯科の診療を受けている人もいる。専門医には基本、家族付き添いで受診している。訪問看護師が週1回訪問し、健康管理をしている。契約している薬局と連携し、時間になると薬が出てきて知らせてくれる「お薬ロボット」を設置しており、2週間に1回薬剤師が管理に訪れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況を把握し、小さな変化でも対応出来る様、何かあればすぐ相談・対応出来る様にしている。医療連携体制として、オンコールで訪問看護とホームでやりとりを行っている。週1回の訪問看護により、健康チェックを行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。家族とも、情報共有出来る様にしている。入院中、計画作成担当者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合う事もある。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と、重度化に伴う対応や看取りの必要が生じた場合の対応を本人・家族に説明している。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに係る指針」について説明している。重度化した時は医師が家族に説明して、職員が再度指針を説明し、対応について同意書を取交し看取りに入っている。24時間対応の訪問医や訪問看護師と連携を図っている。職員は看取りの研修を行い、看取り後は話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアル等を活用し、急変時に備えて日々の実践の中で、誰でも対応できるように準備している。応急手当等は訓練はできていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき行っている。避難訓練は、入居者の状況も把握し、スムーズに出来る様年2回実施し、災害の認識を高める様にしている。非常食も常備している。	年2回、夜間想定で避難訓練を行っている。他に水害想定で2階への垂直避難訓練を行った。避難の際に近隣住民から協力が得られるように、各個室の入り口に顔写真と名前が入ったカードを準備し、いざという時に活かせるよう取組んでいる。感染症予防対策として、手洗い、うがい、消毒、換気を徹底している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を踏まえ、尊厳を損なわない様気をつけ、十分配慮した声掛けを行っている。	尊厳の尊重についての研修を行っている。ゆっくり食事をする人には、せかさないうペースに合わせるなど、一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。排泄支援の時には『トイレ』と言わず表現方法を変えるなど、言葉を選んで声掛けしている。呼び名は希望を聞き、基本「さん」をつけて呼んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたい事等の希望や想いを普段から引き出せるように心掛け、自己決定出来る様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人一人の生活リズムを尊重し、思いのまま過ごして頂ける様配慮している。また、本人がどうしたいのか、どう活動したいのか確認する様にしている。希望は可能な限り対応する様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、自分で選んでおしゃれを楽しんで頂いている。時々マニキュアを塗って楽しんで頂く事もある。身支度の時間は長くなっても納得のいくまで行って頂いている。自分で選べない方には、声掛けして、確認し、身だしなみを整えている。定期的に理美容も実施している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を食していただける機会を設けている。野菜下処理、盛り付け、食後の食器洗い、食器拭き等出来る事はして頂いている。好みを取り入れ、食事が楽しみとなる支援を行っている。	昼・夕食は業者から食材が届き、調理している。ご飯とみそ汁は手作りしている。利用者はできる人は一緒に調理、盛り付け、後片付けを行っている。利用者からのリクエストや行事食にも対応して食事が楽しみなるよう支援している。ドライブの時に食べたいものを購入し、楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量に合わせて提供し、形態も個々に合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診医と協力し、口腔ケアを行っている。義歯洗浄、歯磨き等個人に合わせた口腔ケアを自分で出来る事をして頂いている。不十分な方には、出来る部分まで、自身で行って頂き、仕上げを手伝い、義歯洗浄も行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パット類の見直しを行い、本人の状況にあったものとなる様取り組んでいる。夜間おむつ使用している方でも、日中はリハパンとパット対応で、定時トイレ案内し、出来るだけトイレでの排泄を促している。	一人ひとりのタイミングに合わせ、声がけしトイレで排泄ができるよう支援している。トイレは大きく分かりやすく表示している。便秘予防には水分摂取に気を配り、対策は訪問看護師に相談し医師の指示で薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分量等の配慮も行っている。軽い運動を行って頂き、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決め、入浴時間は、午前10時30分から、午後15時30分の範囲で設定している。入浴希望者には、都度対応し、入浴してもらっている。	週2回の入浴を基本としているが、週3回入浴する人もいる。自立している人で夜間に入浴を希望する場合は、職員が見守っている。入浴を拒まれた場合には、声掛けを工夫し入浴を促すなど清潔保持に努めている。季節に合わせてゆず湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間就寝する時間もその時の本人の想いに添う様にしている。個々の生活リズムや身体状況に応じ、日中の休息も取り入れている。夜間の睡眠も小まめに確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況をまとめた表を活用し、一人一人に合わせてのお薬ロボットを使用している。往診日には、職員が立ち会い、薬についても説明を受け、服薬内容についても、薬の説明書を個々にファイリングし、常に内容が確認できる様にしている。薬のセットは、薬剤師が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来る役割（野菜の下処理、食器洗い、食器拭き、洗濯畳、掃除等）を持って頂いている。脳トレや読書、体操、趣味に取り組める時間も作っている。趣味や嗜好も本人との話で探し、楽しみを持って頂ける様、工夫して対応している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、ほとんど実施できなかった。	人の込み具合に配慮し日時を選んで、秋保や互理、竹駒神社などにドライブに出かけている。車いす対応の車両があり、車いすの人も一緒に出かけ楽しんでいる。気候の良い時は、近くの公園や近隣住宅の大きな庭などに出かけている。ウッドデッキで、収穫した野菜も一緒にバーベキューを行い楽しむなど、イベントを通して外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で少額の小遣いを管理されている方がいる。新型コロナウイルスの影響により、ほとんどお買い物へは行けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方は、いないが、ご本人から電話を掛けたいと訴えがある際には、適宜必要に応じ、対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に限らず、職員が清掃し、清潔を保っている。カーテンやLED照明で明るさを調整し、居心地が良く生活出来る様工夫している。階段、玄関には和む絵を飾っている。フロアには、3台空気清浄機設置している。花壇には、季節に応じた花・野菜を植えている。	リビングは広く明るく、季節が感じられるよう飾りを工夫している。玄関には歴代の利用者が作った飾りびなや干支の人形を飾り和やかな雰囲気季節感が味わえる。職員が温・湿度を管理しており、フロアには加湿できる空気清浄機を設置している。1階のウッドデッキは、利用者が野菜を育て収穫を楽しめる場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下の各所にソファや椅子を設置している。一人で過ごしたり、気の合う同士でお喋りが楽しめたり、くつろいだり出来る様、工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具を持ってきて頂く等工夫している。馴染みのものをもって来て頂く様、お伝えはしている。	エアコン、室内照明、カーテン、クローゼット、コールボタンが備え付けられている。利用者はテレビやタンス、テーブルなど馴染みの物を持ち込み、位牌を持っている人もいる。居室清掃は職員が行う場合は利用者から了解を得たうえで掃除しており、自分で清掃する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が移動しやすい様、手摺や空間に配慮している。居室の表示が見えやすい様になっている。		